

難防除害虫に効く

コテツ[®]フロアブル

® = BASF社の登録商標

- 登録作物が多い
- 幅広い害虫種に優れた効果
- 同時防除に最適

■ 適用害虫と使用方法

* 本剤及びクロルフェナピルを含む農薬の総使用回数の制限を示す。

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)または使用量	使用液量(ℓ/10a)	使用時期	使用*回数	使用方法
りんご	キンモンホソガ、ナミハダニ、ハマキムシ類、ミノガ類	2000	200~700	収穫前日まで	2回	散布
	ヨモギエダシヤク、リンゴサビダニ	2000~4000				
もも	ミカンキイロアザミウマ	2000	200~700	収穫7日前まで	2回	散布
	モモハモグリガ、カンザワハダニ、ナミハダニ、モモサビダニ、ウメシロカイガラムシ	2000~4000				
ネクタリン	ミカンキイロアザミウマ	2000	200~700	収穫7日前まで	2回	散布
	ナミハダニ、カンザワハダニ、チャノキイロアザミウマ、オウトウショウジョウバエ、ウメシロカイガラムシ	2000				
おとう	チャノキイロアザミウマ、フタデンヒメヨコバイ、ミカンキイロアザミウマ、ブドウサビダニ、ハマキムシ類	2000~4000	200~700	収穫60日前まで	3回	散布
	ナミハダニ、カンザワハダニ、ハスモンヨトウ、トビイロトラガ、モンキクロノメイガ、ミノガ類、コガネムシ類、ブドウハモグリダニ	2000				
ぶどう	ナミハダニ、カンザワハダニ	2000~4000	200~700	収穫14日前まで	3回	散布
	カキノヘタムシガ、イラガ類、アザミウマ類、カキサビダニ	2000~3000				
かき	ナミハダニ、カンザワハダニ	2000~4000	200~700	収穫前日まで	3回	散布
	ナミハダニ、カンザワハダニ、ニセナシサビダニ	2000~3000				
なし	ヨモギエダシヤク、チャノキイロアザミウマ	2000	200~700	収穫前日まで	3回	散布
	ヨモギエダシヤク、ハスモンヨトウ、リュウキュウミカンサビダニ、カネタタキ、スグリゾウムシ	2000~4000				
かんきつ	アザミウマ類(ネギアザミウマを除く)、チャノホコリダニ、ミカンサビダニ	2000~6000	200~700	収穫前日まで	3回	散布
	ヒラスハナアザミウマ、カンザワハダニ、ショウジョウバエ類	2000				
いちじく	オウトウハダニ、ウメシロカイガラムシ、イラガ類	2000	200~700	収穫前日まで	2回	散布
	オウトウハダニ、ウメシロカイガラムシ、イラガ類	2000				
小粒核果類	キウイヒメヨコバイ、コガネムシ類	2000	200~700	収穫前日まで	3回	散布
	キウイヒメヨコバイ、コガネムシ類	2000				
キウイフルーツ	チャノキイロアザミウマ	2000	200~700	収穫前日まで	3回	散布
	カンザワハダニ	2000				
マンゴー	イラガ類、オウトウショウジョウバエ	2000	200~700	収穫前日まで	3回	散布
	ハダニ類、ノメイガ類	2000				
ブルーベリー	ハダニ類	2000	200~700	収穫前日まで	2回	散布
	ハダニ類	2000				
あずき	ハダニ類、コフキゾウムシ	2000	200~700	収穫前日まで	2回	散布
	ハダニ類、アズキノメイガ	2000				
豆類 (未成熟、ただし、えだまめ、美えんどう、さやえんどう、さやいんげんを除く)	ハダニ類、アズキノメイガ	2000	200~700	収穫前日まで	2回	散布
	ハダニ類、アズキノメイガ	2000				
えだまめ	ハダニ類、アズキノメイガ	2000	200~700	収穫前日まで	2回	散布
	ハダニ類、アズキノメイガ	2000				
さやいんげん	ハダニ類、アズキノメイガ	2000	200~700	収穫前日まで	2回	散布
	ハダニ類、アズキノメイガ	2000				
実えんどう	ハダニ類、アズキノメイガ	2000	200~700	収穫前日まで	2回	散布
	ハダニ類、アズキノメイガ	2000				
さやえんどう	ハダニ類、アズキノメイガ	2000	200~700	収穫前日まで	2回	散布
	ハダニ類、アズキノメイガ	2000				
きゅうり	ミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、ハダニ類、ウリノメイガ、ウリハムシ	2000	200~700	収穫前日まで	3回	散布
	ミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、ハダニ類	2000				
うり類(漬物用)	ミナミキイロアザミウマ	2000	200~700	収穫前日まで	3回	散布
	ミナミキイロアザミウマ	2000				
すいか	ハダニ類、オオタバコガ、ウリノメイガ	4000	200~700	収穫前日まで	2回	散布
	ハダニ類、オオタバコガ、ウリノメイガ	4000				
にがうり かぼちゃ (日本かぼちゃ)	ミナミキイロアザミウマ	2000	200~700	収穫前日まで	3回	散布
	ミナミキイロアザミウマ	2000				
トマト	オオタバコガ、ミカンキイロアザミウマ、ナミハダニ、トマトサビダニ、トマトキバガ	2000	200~700	収穫前日まで	4回	散布
	オオタバコガ、ミカンキイロアザミウマ、ナミハダニ、トマトサビダニ、トマトキバガ	2000				
なす	ミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、チャノホコリダニ、ハダニ類、オオタバコガ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ、テントウムシダマシ類	2000	200~700	収穫前日まで	4回	散布
	ミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、オオタバコガ、ハダニ類	2000				
ピーマン とうがらし類 (ししとうを除く)	ミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、オオタバコガ、ハダニ類	2000	200~700	収穫前日まで	2回	散布
	ミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、オオタバコガ、ハダニ類	2000				
ししとう	ヒラスハナアザミウマ	4000	200~700	収穫前日まで	2回	散布
	ヒラスハナアザミウマ	4000				
キャベツ	コナガ、アオムシ、タマナギンウワバ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガ、ハイマダラノメイガ	2000	200~700	収穫前日まで	2回	散布
	コナガ、アオムシ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ	2000				
ブロッコリー	アオムシ	2000	200~700	収穫前日まで	2回	散布
	アオムシ	2000				
莖ブロッコリー	コナガ	2000	200~700	収穫前日まで	2回	散布
	コナガ	2000				
カリフラワー	コナガ	2000	200~700	収穫前日まで	2回	散布
	コナガ	2000				
ザイサイ しゅんぎく	ハスモンヨトウ	2000	200~700	収穫前日まで	2回	散布
	ハスモンヨトウ	2000				
メキャベツ 非結球メキャベツ コリアンダー(葉) やなぎたで	ハスモンヨトウ	2000	200~700	収穫前日まで	2回	散布
	ハスモンヨトウ	2000				
なばな類 エンサイ	コナガ、アオムシ、ヨトウムシ、カブラハバチ	2000	200~700	収穫前日まで	2回	散布
	コナガ、アオムシ、ヨトウムシ、カブラハバチ	2000				
はくさい	コナガ	2000	200~700	収穫前日まで	2回	散布
	コナガ	2000				
非結球あぶらな科葉菜類 (こまつな、チンゲンサイ、なばな類、非結球はくさい、非結球メキャベツを除く)	コナガ	2000	200~700	収穫前日まで	2回	散布
	コナガ	2000				
チンゲンサイ	アオムシ、コナガ	2000	200~700	収穫前日まで	2回	散布
	アオムシ、コナガ	2000				
非結球はくさい	アオムシ、コナガ	2000	200~700	収穫前日まで	2回	散布
	アオムシ、コナガ	2000				
こまつな	アオムシ、コナガ、ハクサイダニ	2000	200~700	収穫前日まで	2回	散布
	アオムシ、コナガ、ハクサイダニ	2000				
だいこん	アオムシ、コナガ、ダイコンサルハムシ	2000	200~700	収穫前日まで	2回	散布
	アオムシ、コナガ、ダイコンサルハムシ	2000				

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量(ℓ/10a)	使用時期	使用回数	使用方法
かぶ	コナガ、ナモグリバエ、ヨトウムシ	2000	100~300	収穫前日まで	2回	散布
みょうが(花穂)	ハダニ類			*2花穂の収穫前日まで		
みょうが(莖葉)	ハダニ類、ハスモンヨトウ、シクラメンホコリダニ、ミカンキイロアザミウマ			収穫前日まで		
いちご	シロイチモジヨトウ、ヒョウタンソウムシ類、ネギハモグリバエ、ネギコガ			収穫7日前まで		
ねぎ	ハスモンヨトウ、オオタバコガ			収穫前日まで		
オクラ	ハスモンヨトウ、オオタバコガ、ナモグリバエ、ヨトウムシ			1回		
レタス	ハスモンヨトウ、オオタバコガ、ナモグリバエ、ヨトウムシ				収穫7日前まで	
モロヘイヤ	アザミウマ類				収穫前日まで	
あしたば	ウドノメイガ			収穫前日まで		
やまのいも	カンザワハダニ、ナガイモコガ			収穫3日前まで		
やまのいも(むかご)	ハスモンヨトウ、ハダニ類	2000~4000	1.6	収穫前日まで	*4散布	
かんしょ	ヨツモンカメノコハムシ、シロイチモジヨトウ					
はすいも(葉柄)	カンザワハダニ、ハスモンヨトウ	100~300	2回	収穫7日前まで	2回	散布
さといも	ハダニ類、オオタバコガ、ハスモンヨトウ、ジュウシホシクビナガハムシ、ヨトウムシ	100~500		収穫3日前まで		
アスパラガス	ハダニ類、オオタバコガ、ハスモンヨトウ、ジュウシホシクビナガハムシ、ヨトウムシ	2000	100~300	収穫前日まで	1回	散布
ふき	ハスモンヨトウ、ハダニ類			収穫7日前まで		
ふき(ふきのとう)	ヨトウムシ、ハダニ類、カメノコハムシ			収穫90日前まで		
てんさい	ヨトウムシ			収穫7日前まで		
セルリー	ヨトウムシ			収穫14日前まで		
にんじん	ヨトウムシ、キアゲハ、ヒョウタンソウムシ類			収穫前日まで		
みつば	ハスモンヨトウ			*3収穫14日前まで	1回	
みしまさいご				収穫21日前まで	2回	
つるむらさき				収穫7日前まで	1回	
しょうが				32	3.2	
葉ごぼう				収穫7日前まで	3回	散布
すいぜんじな	ハダニ類、ヨトウムシ			収穫前日まで	2回	
よもぎ	ミナミキイロアザミウマ			収穫3日前まで	1回	
葉にんにく	ハダニ類	2000	100~300	収穫14日前まで	2回	
つわぶき				収穫前日まで		
とう				収穫90日前まで		
せんきゅう				親株養成期 但し、収穫90日前まで	3回	
たらこのき	根株養成期 但し、収穫75日前まで	2回				
はまぼうふう(葉)	シクラメンホコリダニ			2葉期まで 但し、収穫14日前まで	1回	
うど	シクラメンホコリダニ	4000~6000				
ほうれんそう	ホウレンソウケナガコナダニ	4000~6000				
さんしょう(果実)	チャノキイロアザミウマ	4000	200~700	収穫7日前まで		
とうもろこし	ハダニ類、オオタバコガ、ツマジロクサヨトウ			収穫前日まで		
ヤングコーン	ハダニ類、オオタバコガ、ツマジロクサヨトウ			収穫前日まで		
飼料用とうもろこし(子実)	ハダニ類、オオタバコガ、ツマジロクサヨトウ			収穫前日まで		
食用プリムラ	ハスモンヨトウ、ヨトウムシ類、ハダニ類、ミカンキイロアザミウマ			収穫14日前まで		
食用金魚草	ミカンキイロアザミウマ、ヨトウムシ類、ハダニ類	2000	100~300	収穫前日まで	2回	
食用なでしこ				収穫14日前まで		
食用エキザカム				収穫3日前まで		
食用せんにちこう				収穫14日前まで		
食用トレニア						
食用パンジー						
食用ミニバラ	アザミウマ類			収穫3日前まで		
なんでん(葉)	アザミウマ類			収穫14日前まで		
茶	チャノミドリヒメコバエ、チャノキイロアザミウマ、カンザワハダニ、チャノナガサバダニ、チャノホコリダニ、シャクトリムシ類、チャノコカクモノハマキ、マダラカサハラハムシ、チャトゲコナジラミ	2000	200~400	摘採7日前まで	2回	
食用ぎく	ミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、ヨトウムシ類、ハダニ類、オオタバコガ、アワダチソウグンバイ		100~300	収穫3日前まで	2回	散布
きく(葉)	ヨトウムシ類、ハダニ類、オオタバコガ、アワダチソウグンバイ		100~300	収穫7日前まで		
ストック	コナガ、アオムシ、ヨトウムシ類、ハダニ類、ミカンキイロアザミウマ		150~300	発生初期	2回	
花き類・観葉植物(きく、ストックを除く)	ヨトウムシ類、ハダニ類、ミカンキイロアザミウマ		150~300			
しきみ	クスアアナキソウムシ		200~700	発生初期	2回	
		60	6~21			
アザレア	チャノホコリダニ	2000	100~300		2回	散布
みかん(温空・ガラス室等密閉できる場所)	ミカンキイロアザミウマ		*3 300mℓ/10a	10	10	常温煙霧
ぶどう(温空・ガラス室等密閉できる場所)	チャノキイロアザミウマ		*5 150mℓ/10a	6	6	常温煙霧

殺虫剤分類 13

△ 効果・薬害等の注意

- 使用の際は容器をよく振って均一な状態にしてから所定量を取り出してください。
- ハウス等の常温煙霧に使用する場合は、以下のことに注意してください。
 - ① 専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧してください。特に常温煙霧装置の選定及び使用に当たっては病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。
 - ② できるだけ日中の煙霧は夕方、夕刻から煙霧し、6時間以上密閉状態にしてください。
- ホルダー液と混用する場合は凝集することがあるので、本剤を調製した後にホルダー液と混合してください。
- ハダニ類は繁殖が早く、密度が高くなると防除が困難になるので、発生初期に散布むらのないように注意してください。
- 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節してください。
- 本剤は植物体への浸透移行性がないので、かけ残りのないように葉の裏面に十分に散布してください。
- きゅうり・なす・はくさい・だいこん・非結球あぶらな科葉菜類・なばなおよびセルリー等の幼苗期に使用すると薬害を生じることがあるので注意してください。
- みずかけな(水掛菜)に使用する場合は、ほ場内に水がない状態で使用してください。また、使用后14日間は入水しないでください。
- ピーマン・とうがらし類に使用する場合、品種により葉に褐点などの薬害を生じることがあるので、予備散布により薬害の少ないことを確認してから散布してください。
- かき(刀根早生など)の着色期の散布は薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。
- すいかに使用する場合、葉に薬害を生じることがありますが、その後の生育に対する影響は認められていません。
- にがりの幼苗期には薬害を生じるので、定植前には使用しないでください。定植後のがりに使用する場合は、葉に灰褐色などの斑の薬害を生じることがあるので、予備散布により薬害の少ないことを確認してから散布してください。
- 西洋かぼちゃ(黒皮栗・青皮栗・えびす・雪化粧)や、黒皮甘栗・栗味・栗マロン・芳香等)には薬害を生じるおそれがあるので、使用しないでください。
- ほうれんそうに使用する場合、葉に白化などの薬害を生じるおそれがあるので、必ず使用時期を守って使用してください。
- ばら・食用ミニバラに本剤を初めて使用する場合は、事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。
- カーネーションへの散布は薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。
- シクラメンに使用する場合、新葉に薬害を生じる場合があるので、薬害の出ないことを事前確認してから散布してください。
- カラー及び花はすに使用する場合は、湿気状態で使用しないでください。また、使用后14日間は入水しないでください。
- 周辺の作物にかかるおそれがあるので、かからないよう十分注意して散布してください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
 - ① ミツバチの巣箱及びその周辺に近づかないようにしてください。
 - ② 無人航空機による散布でそれらに飛散するおそれがある場合には使用しないでください。
 - ③ 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園等では使用をさけてください。
 - ④ 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めてください。
 - ⑤ マルハナバチに対して影響があるので注意してください。
 - ⑥ 本剤を無人航空機で散布する場合は、次の事項に注意してください。
 - ① 散布機種の散布基準に従って実施してください。
 - ② 散布機種に適合した散布装置を使用してください。
 - ③ 散布中、薬液が漏れないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
 - ④ 散布薬液の飛散による他の分野への影響に注意して、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意してください。

- 散布終了後は以下の注意事項を守ってください。
- ・ 使用後の空容器は放置せず、安全な場所に廃棄してください。
- ・ 使用残りの薬液が生じないように調整を行い、使いきってください。
- ・ 散布終了後、機体の装置は十分洗浄してください。また、薬液タンクの洗浄廃液は河川等に流さないでください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

△ 安全使用上の注意

- 医薬用外劇物。取扱いには十分注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の指示を受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の指示を受けてください。
- 散布等の作業の際は、防護マスク・手袋・不浸透性防除衣などを着用してください。作業後は手袋・顔などを石けんでよく洗い、うがいをしてください。
- 常温煙霧中はハウス内へ入らないでください。また、常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室してください。
- 街路、公園等を使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう細心の注意を払ってください。
- 被害を受けやすい作物や立木等に散布する場合は、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- 直射日光を避け、鏡のかかるなるべく低温場所に密栓して保管してください。

*1 花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用する
 *2 花穂を収穫しない場合にあつては開花期終了まで *3 但し、伏せ込み栽培は伏せ込み前まで
 *4 無人航空機による散布 *5 使用量

水産動植物(魚類・甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意してください。使用残りの薬液が生じないように調整を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

★ 使用前にはラベルをよく読んでください。 ★ ラベルの記載以外には使用しないでください。 ★ 小児の手の届くところには置かないでください。
 ★ 使用後の空容器等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。 ★ 防除日誌を記録しましょう。

※この資料は2026年1月現在の知見に基づき作成したものです。



詳細やSDSは
WEBでご覧
いただけます